

# 接続政策委員会 追加質問への回答

**NTT**  
**docomo**

2020年 6月30日

## 【NTTドコモ】 回答①

項番	ご質問	当社回答
①-1	ユーザ料金設定やサービス維持の観点から接続料支出はどうあることが望ましいか伺いたい。(固定・携帯別)	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ ユーザ料金は、コストに加えて、お客さまのニーズやLINE通話・Skype等のコミュニケーションサービスの動向、市場の競争状況等により決まるものであり、接続料支出はサービス提供におけるコストの一部であるものの、直接的な影響を及ぼすものではありません。</li><li>✓ なお、音声相互接続は双務的に行われるため、規制によって接続料支出が低廉化したとしても、それは接続料収入を減少させることにもなります。電気通信事業者が持続的に役務提供をしていくためには、その提供に要したコストが接続料として適切に回収できることが重要であると考えます。</li></ul>
①-2	定額制プランの柔軟化等のサービス内容改善によって、需要は増加あるいは減少抑制し得るか伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 当社が2014年6月に定額制を導入した際においては、音声トラフィック需要は増加しましたが、その後は定額制プランの契約者が増加した年度でさえも音声トラフィック需要が減少する等、需要は緩やかな減少傾向を辿っているところです。</li><li>✓ こうした状況に加え、利用者は、現に、音声通話のみならず、LINE通話やSkype等をはじめとした多様なサービスを利用することでコミュニケーションを図っているところであり、本来、利用者のニーズや動向、環境変化が見込まれる市場動向を広く俯瞰した分析・検証が求められます。そうした中、手段の一つに過ぎない音声通話に閉じた分析・検証を行うだけでは、上述のような多面的な市場を的確に捉えて評価することはできないと考えます。</li></ul>

## 【NTTドコモ】 回答②

項番	ご質問	当社回答
②-1	特に固定電話・携帯電話間において、トラフィックバランスと接続料収支のバランスが異なることについてどう考えるか伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ まず、トラフィックバランスは利用者の選択の結果として生じるものであり、接続料収支はトラフィックと接続料単金により計算されるものです。</li> <li>✓ そのため、音声相互接続において、仮に発信と着信に係るトラフィックが同一であったとしても、接続料単金の水準が異なれば、接続料収支は当然に異なります。</li> <li>✓ 音声通話については、相互に利用した分のコストを接続料として負担することで、設備構成の異なる多様な事業者間で通話を実現しているものであり、固定電話事業者と携帯電話事業者では設備構成が全く異なることから、当然、接続料水準には差分が生じ得るものと考えます。</li> <li>✓ そのため、トラフィックバランスと接続料収支のみを切り出して議論することは適切でないと考えます。</li> <li>✓ なお、接続料については、事業者が協議を通じて解決を図るべきものと考えます。</li> </ul>
②-2	接続料格差については事業者間協議で解消可能か。また、その交渉コストについてどのように考えるか伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 接続料については、事業者間で格差が存在しておりますが、その格差も縮小傾向にあり、今後も引き続き事業者間協議を通じて格差の解決を図ることは可能と考えます。</li> <li>✓ 仮に協議が難航した場合でも、まずは紛争処理スキームを含めた現行制度の枠内で対処していくことで十分であり、ただちに着信接続料規制という新たな規制を導入することにより解決を図るべき課題はないと考えます。</li> <li>✓ なお、音声相互接続に係る費用の大宗は設備コストであるため、交渉コストが接続料に及ぼす影響は限定的と考えます。</li> </ul>
②-3	事業者間協議が調わなかった、あるいは調べていない事例があるか。あればその概要について伺いたい。 ※委員限り	<div data-bbox="1825 1075 2011 1119" style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">委員限り</div>

## 【NTTドコモ】 回答③

項番	ご質問	当社回答
③-1	事業者間競争あるいはサービス維持のため、現在、どのような設備効率化を図っているか伺いたい。	✓ 仮想化等新技術の導入や、設備構築・運用における創意工夫（汎用装置の活用、基地局収容率の向上、高性能装置の導入、業務集約等）、3Gサービス終了等によるコスト削減等、設備効率化に取り組んでおります。
③-2	自網の効率化によって接続料収入が減る恐れがあること、他方で自網の効率化によらず接続料支出が発生することについてどのように考えるか伺いたい。	✓ モバイル市場は事業者の新規参入等厳しい競争環境にあり、当社として市場競争に適切に対応すべく、ネットワーク設備の効率化を会社の経営課題として積極的に取り組んでいるところです。 ✓ なお、仮に、自網を効率化せず接続料原価を高止まりさせた場合においても、自社ユーザ向けサービスの原価となることから、接続料収入の増加を目論み、ネットワーク設備の効率化を行わないということは当社として取り得ません。
③-3	音声系へのコスト配賦に関して、トラフィックに連動しない主な設備コスト及びその配賦基準例をお示しいただきたい。また、接続のために追加的に必要となる主な設備コストをお示しいただきたい。（固定・携帯別）	✓ トラフィックに連動しない設備コストとして主なものは、顧客管理システムや電波利用料、位置登録に係る設備コスト等が挙げられます。顧客管理システム及び電波利用料については直接把握し、位置登録に係る設備コストについては配賦で算出しております。この際の配賦基準の例としては、トラフィックに連動する設備と契約数に連動する設備との固定資産価額比が挙げられます。 ✓ 接続のみのために追加的に必要となる設備は関門交換機がございしますが、発信呼・着信呼を合わせてトラフィック量を想定し、基地局・交換機・伝送路を構築しておりますので、それらも追加的に必要となる設備に該当します。